

ピッツバーグ大学脳神経外科留学記

University of Pittsburgh
Department of Neurological surgery
Cortical systems laboratory

池谷 直樹

(横浜市立大学医学部脳神経外科学)

2022年9月より、米国ペンシルバニア州のピッツバーグ大学脳神経外科 Jorge A. Gonzalez-Martinez 教授のもとに研究留学にきております。

ピッツバーグは近郊と合わせて人口約300万人のペンシルバニア州西部に位置する都市で、大学のある中心部はアレゲニー川とモノンガヒラ川に囲まれたゴールドトラリアングルと呼ばれる特徴的な地形を形成しています。古くは鉄鋼業で名を馳せましたが、近年は学術都市として、ピッツバーグ大学やカーネギーメロン大学をはじめとする多くの大学がキャンパスを置いており、文教地区はいつもたくさんの学生で賑わっています。また、ゴールドトラリアングルにはパイレーツ (MLB)、スティーラーズ (NFL)、ペンギンズ (NHL) と北米4大スポーツのうち3リーグのチームが本拠地を置いており、多くの住民が自分のお気に入りのチームのウェアを着て街を歩いています。さらにアンドリュー・カーネギーが設立に関与した美術館や博物館も身近にあり、近隣では豊かな自然も満喫することができる、とても魅力的な街です。

Gonzalez 教授はてんかん外科および機能的脳神経外科臨床領域の世界的なリーダーであり、かつ自身の研究室として Cortical Systems Laboratory を運営しており、私は Gonzalez 教授に直属する形で脳神経外科に所属しながら Cortical Systems Laboratory で研究に携わっています。週1回の研究ミーティングには、研究室メンバーに加えて、カーネギーメロン大学神経科学部門やピッツバーグ大学脳神経内科のファカルティー、大学院生、学生が定期的に参加しており、米国の研究推進力を肌で感じる、診療科横断的、学際的なチーム体制を目の当たりにしています。ミーティングは、不定期にメンバーや学生が研究計画や進捗報告、結果共有のプレゼンテーションを行い、様々な角度からの議論によってチーム全員で研究を磨くシステムになっており、私も渡米2ヶ月目で上原記念生命科学財団から助成いただいた研究内容を基にした発表を行い、より深くテーマを掘り下げることができました。さらに現在では、研究室が進める他の複数のプロジェクトにも関わるようになり、Brain Machine Interface に携わるなど、渡米前には全く想定していなかった方向へと大きく展開してきており、改めて海外留学へ踏み出して良かったと実感しています。

このような貴重な機会をご支援いただいた上原記念生命科学財団の関係者の皆様、送り出していただいた横浜市立大学脳神経外科教授の山本哲哉先生、国立精神神経医療研究セン

ター病院脳神経外科部長の岩崎真樹先生、お世話になった全ての皆様に、改めてこの場を借りて深く御礼申し上げます。残りの留学生生活を最大限に活用して、可能な限り多くのものを得ることで、ご恩返ししていく所存です。



Cathedral of Learning

1926年着工、1937年に開館された42階建ての建物で、ピッツバーグおよびピッツバーグ大学の象徴的な建造物。米国の国家歴史登録財でありながら、現役の校舎として活用されている。